

V 学社連携・融合

「米作りを通じて絆を深める」

福岡市下山門公民館 館長 古森 義次
主事 野呂 由美

1. 事業名 「米作りを通じて絆を深める」
～下山門小学校と公民館と地域のつながり～
2. 目的 公民館を中心に下山門地域の教育力を活用しながら、下山門小学校の児童に体験的な活動を通して、地域の素晴らしさを実感させる。
3. 事業の実施主体 下山門小学校 下山門公民館
4. 協力団体 自治協議会、校区住民（ボランティア）、下山門小PTA
5. 事業予算 学校よりでる講師謝礼金にて、種もみ・土・肥料などを購入している。
6. 実施に至る経緯

平成13年度に下山門小創立30周年事業の一環としてとして、学校から現館長に5年生の「米作り」(総合的な学習の時間)と4年生の「花作り」への支援依頼があり、「米作り」については、種もみをまいての苗づくりから始まり、秋の収穫、稲わらを使ってのしめ縄作り、そしてご飯炊きまでの一連の米作りの体験学習が行われ今日まで続いている。また、「花作り」についても、コスモスから始まって試行錯誤を重ねながら、現在では4年生と一緒にひまわりを育てている。他学年においても地域の「人・物・事」を活用した教育活動が展開され、公民館を中心に地域諸団体が支援している。

7. 校区の概要

福岡市西区に属し、北は生の松原海岸に接している。元寇防塁や生の松原海岸森林公園、十郎川などの史跡や自然、住宅地を縫うように田畑も残り、緑の多い地域となっている。校区内にJR下山門駅があり、地下鉄姪浜駅、都市高速姪浜ランプ、福重ランプも近く、交通の便が高い。近隣に商業施設もあり、生活の利便性も高い。



人口約9,400人、世帯数約4,000世帯。校区の半分を占める下山門団地では高齢化が進んでいるが、福岡市全体と比べると高齢化率は低く、0～14歳の人口割合が大きい。下山門小学校は児童数約740名、24クラス（各学年4クラス）の中規模校である。今年で創立40周年を迎える。

8. 内容

(1) 5年生以外の学年と公民館との関わり

4年ー総合的な学習の時間「住みやすい町づくり下山門②(ひまわり植栽)」

公民館事業『校区花いっぱい運動』と地域団体『ひまわりを咲かせる会』の共催事業の一環として、4年生と一緒にひまわりを育てている。

6年—平和教育「戦争体験談を聞く」

公民館を通じて下山門大学（高齢者教室）や地域の高齢者の方々が、6年生に戦争体験を語る。

全校—体育「スポーツテスト」

地域の方や保護者、総勢140人余りがボランティアとして参加している。公民館も職員全員が協力している。また、公民館から地域の方に声かけもしている。

(2) 「米作りを通じて絆を深める」(5年生／総合的な学習の時間)

5年生全員で、学校行事の一環として、公民館と共催で年間を通じて米作りをしている。田は米作りを始めた当初は現公民館長(当時は公民館主事)所有の田を使っていたが、現在は自治会長所有の田を提供していただいている。広さは12アール。一昨年から隣の石丸小学校と半分ずつ使わせていただいている。

1年間で「苗づくり」「田植え」「案山子立て」「稲刈り」「しめ縄作り」「かまど炊き」の行事があり、それぞれの行事ごとに、小学校と打合せをして日程と作業手順を決定する。公民館から米作の経験のある方々に地域ボランティア指導者として依頼している。また、米作り期間中の田んぼの管理もこれらの方がボランティアでしていただいている。(土作り・肥料・水の管理など)

5年生は全部で129名、それぞれの行事で地域の参加者は増減があるが、田植えと稲刈りは保護者の参加も多く、先生方やPTAの参加も含めると大人は総勢100名近くになる。

- ① 種籾→苗床づくり 5月25日(水) 各学級、4班に分かれ、班ごとに苗床用の箱板に肥料と土をいれて種籾を均等にまきます。



種蒔きから1ヶ月
こんなに苗が大きくなりました。

② 田植え 6月21日(火)

各学級ごとに全員横一列になり、後ずさりしながら苗を植えていきます。田の管理は、地域のボランティアの方がしてくださいます。水の管理がしっかりしているので、草取りの必要がありません。

通学途中で、日々伸びていく稲の様子を観察します。稲刈りが楽しみです。



5年生が案山子を30体ほど作って立てました。



③ 稲刈り 10月12日(水)

田植えから数えて114日目に稲穂を刈り取り、コンバインで脱穀しました。田んぼには脱穀した稲わらのにおいが広がっていました。



④ ご長寿ふれあい会食会 11月12日(土)



下山門校区ご長寿ふれあい会食会（社会福祉協議会主催）で出されたご飯は、児童が育てたお米で作ったことを、児童代表が写真を提示しながら報告し、地域のお年寄りから感謝されました。

⑤ しめ縄づくり 12月15日(木)

5年生が育てた稲のわらを使って、地域のお年寄りから手ほどきを受け、裸足になって足と両手を使って器用にしめ縄をつくりました。



⑥ かまど炊き 2月15日(水)



米づくりの最後は、例年、収穫した新米をお釜で炊いて、みんなで仲良く味わいます。

このときの指導は、公民館の高齢者教室の皆さん（下山門大学会員）にお願いします。

9. 事業の成果

- 体験を通しての学習なので、児童の意欲・興味・関心が高い。児童が米作りについてインターネット等で調べ、種籾から苗作り、田植え、草取り、案山子づくり、稲刈り(脱穀)、しめ縄づくり、ご飯炊きと1年間を通しての体験学習は、児童の興味・関心を引き出し意欲的な学習につながった。
- 公民館と地域の人たちとのかかわりや校区住民同士の交流が深まり、情報交換の場が増えた。また、互いに協力体制が確立してきた。
- 子どもたちとも1年を通じたのつきあいとなるので、互いに顔見知りとなり、挨拶をしてくれる。校区住民のなかに、地域で子どもを育てるといった感覚が生まれている。子育て世代である保護者と、子育てを終えた世代との交流も深まる。

10. 今後の課題

- 取り組みに係る予算の確保
- 参加者が固定されることにより個人的なかわりは深まるが、それだけでなく、今後は校区全体にも参加者が広がっていくようもっと呼びかけをしていきたい。

問合せ先 819-0052 福岡市西区下山門4丁目14-38 下山門公民館

TEL 092-881-8383 FAX 092-881-8384

メールアドレス shimoyamato77@jcom.home.ne.jp